

学校評価の結果と考察

1 教育目標・学校運営

「学校運営に教職員の意見が反映されている」という項目に、「十分満足できる」と回答した職員は、9月50%から1月78%に大きく数値があがっている。今年度は、学校行事や普段の生活がコロナ対策をしながらの2年目となり、職員が知恵を出し合い協力して、対策をとりながら取り組めることを模索し実行した結果が数値として表れていると考えられる。また、10月から12月の間に、体育的・文化的行事に加え、宿泊行事を行うことができたことも、今年度は1月の数値が高い一因になっていると考える。

来年度以降も教育的価値や生徒の安全を考えながら、ウィズコロナで教員や生徒の意見を反映させながら、取り組めることを模索していく。

2 授業

「授業において、友達と考えを広げたり深めたりする場面がありますか」と生徒に聞いたところ、1年生では95.4%、2年生では95.8%、3年生では100%が「十分ある」「おおむねある」と回答しており、どの学年も非常に高い数値である。教員の自己評価も「生徒一人一人の意見を大切にしてい、授業を進めている」「教材や指導方法を工夫・改善するなど、生徒の主体性を育む授業になるよう努力している」という項目に、どちらも最終的に72%が「十分満足できる」28%が「おおむね満足できる」と回答している。今年度から、新学習指導要領となり授業や評価が大きく変わったものの、生徒、教員の双方の結果からは、新しい学力観に沿った授業改善が進んでいることがうかがわれる。

新学習要領に加えて、一人1台端末の使用も、来年度は本格実施の2年目となる。今年度の反省から来年度へつながるように、教科部会や現職教育の時間を確保していきたい。

3 生徒指導・教育相談

教員のアンケート結果では「十分満足できる」との回答が、「いじめや問題行動の対応には、組織的に取り組んでいる」において69%から94%に、「生徒指導において、家庭との連携がとれている」において62%から89%に、大きく数値が上がっている。2学期から3学期にかけて、学年主任を中心に学年の職員が情報を共有して、問題に取り組んでいるためであると考ええる。また、小規模校であつても、週に1回の生徒指導部会を大切にして、情報を共有し、学校の問題として捉えているため、他学年の状況もおおむね把握している職員が多い。そのため、少経験者であつても相談しやすい環境にあるといえる。

また、教育相談を学期に1回、学校生活アンケートを年4回行い、生徒の抱える学校生活の問題について、早期発見・早期対応ができるように努めている。しかし、「先生と相談する機会は十分ありますか」というアンケート結果に、「十分ある」「だいたいある」と答えている生徒は、1年生では79.7%、2年生では66.7%、3年生では90%である。1年生・2年生で、教員に相談できず悩みを抱えている生徒が多いことがわかる。生徒の様子をよく観察し、積極的に教員からの声かけをしていく

ためにも、今まで以上に業務を精選し、ゆとりをもって日々生徒と向き合っていきたい。

4 家庭・地域との連携

「生徒指導において、家庭との連携がとれている」と答えた教員が89%に対して、「学校は、お子様のことについて十分家庭に連絡や相談を入れていますか」という問いに「十分連絡をとっている」「おおむね連絡をとっている」と回答した保護者は、合わせても81%である。感染症対策として、授業参観がなくなり、学校公開においても保護者の校内へ入ることを制限しているため、子どもの学校での様子が伝わりにくくなっているためではないかと考える。「学校は、通信やHP等で学校の様子をお知らせできていますか」という問いに、「できている」「おおむねできている」と回答した保護者は、87.7%、地域の方の回答も71%であった。HPやHome&Schoolを利用して、行事や学校の様子を伝えていくとともに、感染症対策をしながら、保護者に学校へ足を運んでもらう機会を模索していきたい。

また、「学校は地域と連携した取組を積極的に取り入れ行っている」という問いに、「十分満足できる」と回答した教員が31%から50%へ数値が上がっている。今年度も感染症対策で、地域の行事がすべて無くなってしまったため数値としては低いものの、今年から地域連携室の方が、特別支援学級の生徒と一緒に花壇作りや木工製作に取り組み始めたことが、割合の上昇につながったと考える。来年度は、地域の行事が行われ、中学生が活躍できる機会が増えることを願っている。